

病理診断科、泌尿器科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	前立腺癌における Intraductal carcinoma の臨床病理学的検討
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	病理診断科、泌尿器科
研究責任者	教授 都築豊徳
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	名古屋第二赤十字病院 病理診断科 村瀬陽太
研究の意義・目的	予後不良な前立腺癌である Intraductal carcinoma を対象として、病態を明らかにするために遺伝子検査やタンパク発現解析を行います。これにより、予後を改善するための新しい治療戦略の確立を目的としています。
対象となる患者さん	2000年以降に前立腺癌と診断された患者さん
研究の方法	<p>多施設共同の後方視的研究であり、後方視的な調査研究として行います。選択基準を満たした方を対象に、その診断時における臨床的所見、血液検査所見について調査表を用いてデータを収集し解析を行います。また、診断時に使用した生検検体もしくは切除標本を用い、免疫組織化学的な評価、FISH やシーケンスによる遺伝子異常の検索、形態像などの病理組織学的所見を再評価致します。治療を行ったものに関しては、治療方法とその反応性を調査します。予後については、生死、再発・増悪の有無について調査を行います。</p> <p>これらのデータをもとに、生物統計学的方法によって生存期間、無増悪生存期間、治療法毎の奏功割合、生存期間や無増悪生存期間、奏効割合に影響する予後影響因子について解析します。</p> <p>希望があれば、研究計画の内容を見ることができます。下記問い合わせ先まで御連絡頂ければ対応致します。</p>
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023年3月31日
研究に用いる試料・情報	試料：ホルマリン固定ブロック 情報：血液検査結果、放射線画像検査結果等
外部への試料・情報の提供	なし

試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は、下記問い合わせ先まで申し出てください。ただし、試料・情報が個人を識別できる場合のみ対応可能です。
問い合わせ先	愛知医科大学病院 病理診断科 担当者：教授 都築豊徳 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311（内線 37424）